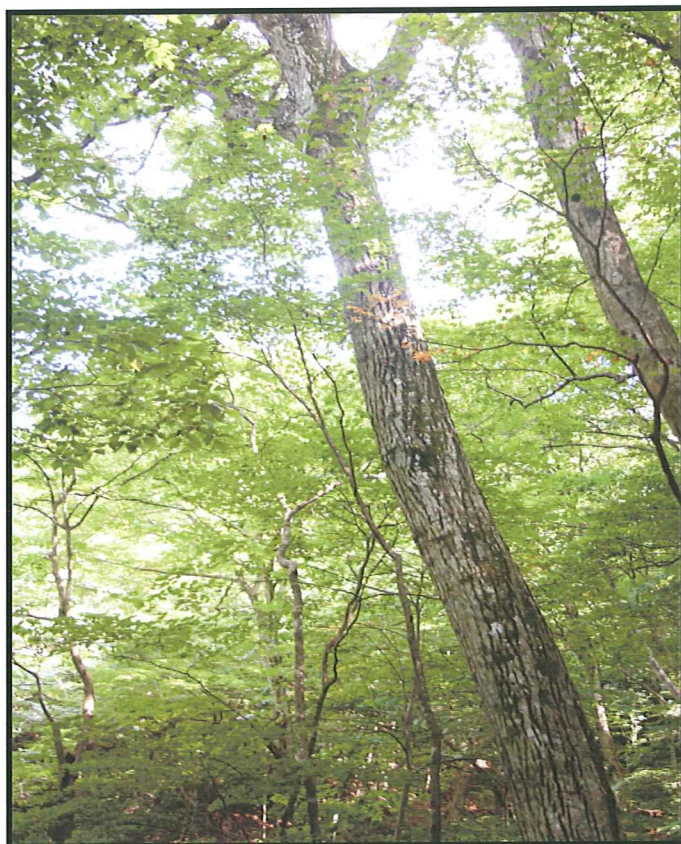


## 19. イヌシデ (納戸のイヌシデ)



直径 7 5 c m



樹高 2 4 m

### 【解説】

現地は、前述した多くの巨木が生育している「和尚山温帯性植物群落保護林」内にある。

カバノキ科の同属には、クマシデ、アカシデ等がある。こちらはシデの前にイヌが付くが何か他のシデよりも劣るところがあるのだろうか。イヌシデには幹に網を巻き付けたような独特の白い模様が出るが、これは地衣類によるものだとのことである。

コナラやクヌギなどと同様に里山に多く生育していることから、炭材やシイタケのほだ木など人間の生活の中に利用されてきた樹種である。

今回の調査では、この木以外にイヌシデの巨木を見つけることはできなかった。この木も前述のコナラと同様に、保護林の中にあつたことから、これほどの巨木として残ったのであろう。

### 【所在地】

北茨城市関本町小川字和尚山国有林 1 0 1 3 ね林小班内  
北緯 3 6 ° 5 4 ' 2 9 " 東経 1 4 0 ° 3 5 ' 5 2 " 付近